日本大学商学部校友会報

発行所
日本大学商学部
校友会事務局
東京都世田谷区砧5-2-1
郵便番号　157-8570
日本大学商学部内
電話　03（3749）6720
発行責任者　中村　理

# 大塚学長が再任
# 学長選出会議で全員一致

**大塚吉兵衛学長の任期満了に伴う次期学長選出は、6月9日の理事会の議を経て現学長の大塚氏に決定した。任期は9月1日から3年間。**

5月の第1回学長候補者推薦委員会で学長選出規則第9、12条に基づき学長候補者選考が行われ、大塚氏が有効票の3分の2以上を獲得したため、大塚氏を候補者として推薦することを決定した。同10条に基づき学長候補者推薦委員会委員選出有資格者の連署による推薦を受け付け、1人についての推薦書が提出された。

第2回同推薦委員会で同13条に基づき、候補者の追加の可否について投票を実施。得票数が有効投票の3分の2に満たなかったため、追加はならなかった。これにより候補者が大塚氏に確定。学部長と理事長から成る学長選出会議は5日、全員一致で大塚氏を次期学長に選出した。

**【大塚氏の略歴】**

1944年6月19日、栃木県生まれ。73歳。73年大学院歯学研究科博士課程修了。93年歯学部教授。2004年同学部長、大学院歯学研究科長。06～07年、09～10年本学副総長、11年総長、短期大学部学長、大学院法務研究科長。13年4月より、総長から学長に職位変更

## 「日本大学教育憲章」制定
## 教育の質向上を目指す

昨年12月2日の学部長会議の審議を経て、学長が決定し「日本大学教育憲章」が制定された。大学の「目的及び使命」を踏まえ、学生が身に付けていく具体的な能力などを同憲章にまとめた。

この憲章を基に今後、各学部・研究科の「教育研究上の目的」「卒業の認定」「教育課程の編成及び実施」「入学者の受入れ」の方針について見直しを図ることで、全学としての体系的な教学施策の実現と教育の質向上を目指していく。

同憲章は、「日本の特質を理解し伝える力」「多様な価値を受容し、自己の立場・役割を認識する力」「社会に貢献する姿勢」を「日本大学マインド」とし、また「自主創造」の三つの構成要素及び能力を掲げた。

**「自ら学ぶ」**＝豊かな知識・教養に基づく高い倫理観、世界の現状を理解し、説明する力

**「自ら考える」**＝論理的・批判的思考力、問題発見・解決力

**「自ら道をひらく」**＝挑戦力、コミュニケーション力、リーダーシップ・協働力、省察力

## 校友会活動の更なる発展と充実を目指して

商学部　校友会会長　中村　理

校友の皆様にはご健勝にてご活躍のこととお慶び申し上げます。

平素は商学部校友会に格別なるご支援ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

平成29年度[第41号校友会報」を発行するにあたり一言ご挨拶申し上げます。

去る5月25日の商学部校友会総会におきまして、私・中村が商学部校友会長に再選されました事を報告致しますとともに感謝申し上げます。そして平成31年までの約3年間、商学部校友会の舵取りをさせて頂きます。

従前の通り①校友との絆を深め、校友との輪を広げること、②学部教職員の先生方とのコミュニケーションを重視し学部との連携を強化すること、③在学生を支援することを基軸とし校友会を運営してまいります。

11月4日に開催されました22回目のホームカミングデーには多くの校友の皆様に砧キャンパスにご来場頂き教職員の先生方、校友との絆を深めると同時に和気藹々と旧交を温めることができました。校友が一同に会するホームカミングデーをさらに充実させていきたいと考えております。

在校生に対する支援では、奨学金の給付を始め、学生4団体の幹部との交流会・懇親会を開催し、在学生に校友会を理解頂くと同時に在学生の要望を聴く機会を設けました。

またインゼミ大会ではゼミ生の研究発表を審査する審査員として参画し優秀なゼミには校友会賞を授与致しました。

商学部校友会執行部は校友の皆様のご期待とご要望にお応えできるよう様々な企画を検討し校友会活動を行っておりますが、まだまだ行き届かない点があろうかと思います。

これからも校友会を充実させるため努力してまいりますので校友の皆様からのご意見・ご提案をメール、FAX等でお寄せ頂ければ幸甚に存じます。

また校友会活動を更に充実させるため、校友の皆様には『正会員制度』をご理解頂き、正会員に加入頂きたくお願い致します。正会員制度は、加入者の年会費で母校である日本大学と後輩たちを支援するための制度であり、正会員には日本大学病院における特典、全国校友のお店&お宿のご紹介、学部図書館の利用等特典サービスを受けることができます。この場をお借りしてお願い致します。

今後とも皆様方のより一層のご支援ご協力を切にお願い申し上げます。

末尾ながら校友の皆様の今後益々のご活躍ご健勝を祈念致します。

## 鉄人の手作りランチ
## 学生価格で大好評

学生に直接、特製ランチを渡す酒井さん

「フレンチの鉄人」坂井宏行シェフが5月9日、商学部の食堂に現れて手作りのランチを自ら提供し、用意した450食が瞬く間に売り切れるほどの盛況となった。

料理はシェフが監修したラ・ロシェル風ビーフストロガノフ。キノコなどを入れて季節感を出したまぜご飯に、牛肉は細く切ったものを一枚ずつ巻いて作る手間のかかった逸品だが、同学部の補助もあってスープ付き500円の学生価格で提供したため大好評。坂井シェフも、自ら料理を皿に盛って学生に手渡したり、一緒に記念写真に納まったりと大サービスだった。

企画は、百円朝食や4月に実施した新入生歓迎「ミート・ウイーク(肉の週間)」などと同じく、食の面での学生への還元施策の一環。

坂井シェフ自身、大学では初の登場だが「超うまい！」と喜ぶ学生の声に、「若者向けに味は少し濃いめ。学生だけあって、皆さん行動が素早いですね」とまんざらでもなさそうだった。

## 学生と向き合う

日本大学商学部長　髙橋　史安

日本大学は、昨年12月に「日本大学教育憲章」を制定し、今年度より施行することにしました。これにより、自主創造(自ら学ぶ、自ら考える、自ら道をひらく）の教育理念の下、日大人として卒業までに身につけるべき8つの具体的指標が示されました(詳しくは日本大学のホームページをご参照下さい)。

この日本大学教育憲章を実践していくなかでキーワードになるのが、「学生と向き合う」ということです。それは教職員が授業や業務を行うに当たって、「学生は何を得たいのか、何を学びたいのか」という学生の視点に立って、日々の授業や業務に努め、学生の成長を第一に考えるということです。

私は、昨年8月に商学部長を拝命し、商学部のビジョンとして、「入れる大学から入りたい大学になり、入学後はその素晴らしさが体感でき、入学して本当に良かったと心から思える大学として、そして卒業後は、母校を誇りに思える大学、日本大学商学部出身者として胸を張って社会に貢献できる大学を目指す」ことを掲げました。換言すれば、入学から卒業まで、教職員が個々の学生に向き合って丁寧に育てる商学部改革を目指すということです。

日本大学商学部は、ボーダレス化した地球市民の一員として、人と人との相互の関係性の中から自ら学び、問題発見の力を養うとともに、問題解決に向けて常に創意工夫し、自らイノベーションを創発できる日大人(自主創造型ビジネスパーソン)を育成し、その実現に向けて教職員が一丸となって学生と向き合って行かなければなりません。

学生と教員と職員が三位一体となった日本大学商学部を目指し邁進して参りたいと存じますので、校友の皆様には引き続き温かいご支援とご協力を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

全国校友大会

## 例年とは趣が変わりながらも
## 和やかな全国校友大会が開催

全学部の校友が一堂に会する全国校友大会が、11月2日（木)に東京ドームホテル・天空で、約800人の校友が詰めかけ盛大に行われた。

本部校友会の発案で、その後の歓談時間は、マンネリを防ぐためと他学部との校友とも交流が持てるようにという趣旨で、各学部の各学部のテーブルブースが例年と位置替えされた。

内田正人大会実行委員長・校友会副会長が開会の辞を述べ、続いて4期目に就任した田中英壽日本大学理事長・校友会会長、3期目を迎えた大塚学長の挨拶となった。

中野伍朗校友会副会長・工学部校友会会長が乾杯の発声を、その後歓談となった。また、校友の経営する酒蔵6社がブース参加する新趣向では、日本酒が振る舞われた。

商学部校友は本年度の卒業生も校友会員として参加し、世代の広がりを感じさせた。若い世代の校友が年配の校友と杯を酌み交わすなど、和気あいあいとし、例年以上の楽しさに溢れた時が流れた。

本学校友が経営する酒造6社と日本酒が振る舞われたブース(右)

先輩校友と酒蔵ブースで乾杯をする本年度卒業の岡村亮秀氏(一番右)

商学部校友がにこやかに中村会長を囲み記念撮影

# 商学部校友会総会が開かれ 29年度予算・事業計画などが承認

平成29年度商学部総会が、5月25日（木）午後6時30分から東京・新宿のハイアットリージェンシー東京の「平安」で開催された。

総会は鈴木良三常任幹事の司会・進行で始まった。中村理校友会長の挨拶の後、議長ならびに議事録署名人の承認がなされた。資料の議事案に沿って第1号議案から第3号議案までの事業報告、決算報告、監査報告が一括上程され、質疑応答が行われた後承認された。同様に第4号議案から第7号議案までの議案内容が詳細に説明され、質疑応答を経ていずれの案も満場一致で可決・承認された。

総会に続き会場を「クリスタルルーム」に移し、「懇親会」が竹内達也常任幹事の進行で行われた。山本裕二副会長の開会の辞に続き、校歌斉唱の後、二期目に再選された中村校友会長、続いて来賓として出席された日本大学大塚吉兵衛学長の挨拶が行われた。学長の他、髙橋史安商学部長、江黒俊弘本部事務局次長ならびに各学部校友会会長も来賓として参加。

新しくなった設備やマスメディアを通じて紹介された「商学部」が服部史郎商学部事務局長から報告後、乾杯の発声が行われた。参加者の和やかな懇談が会場を包む中、本間彊副会長が一本締めで会を閉めた。

上程された議案は質疑応答の後が可決された

挨拶後、中村校友会長と歓談された大塚学長

様々な方面からの「商学部」も映像で紹介され、学部への思いが募るひと時となった

## 平成28年度 商学部校友会事業報告

| | | |
|---|---|---|
| 4月 | 1日 | 開講式、資格取得奨励生賞状授与式 |
| | 3日 | 総会案内10，000通発送 |
| | 7日 | 常任幹事会開催 |
| | 8日 | 日本大学入学式 |
| 5月 | 10日 | 常任幹事会開催 |
| | 13日 | 会計監査実施 |
| | 26日 | 総会・懇親会（ハイアットリージェンシー東京） |
| 6月 | 1日 | 常任幹事会開催 |
| | 17日 | 第1回日本大学校友会会長・副会長会及び常任委員会 |
| 7月 | 1日 | 日本大学校友会役員総会（東京ドームホテル） |
| | 30日 | 常任幹事会開催 |
| 9月 | 8日 | 常任幹事会開催 |
| | 25日 | 第13回親睦ゴルフ大会（取手国際ゴルフ倶楽部） |
| 10月 | 13日 | 常任幹事会開催 |
| | 29日 | 第21回ホーム カミングデー協賛（砧祭期間中）<br>砧祭オープニングで砧祭実行委員会に<br>協賛金贈呈（600，000円） |
| 11月 | 4日 | 日本大学全国校友大会（東京ドームホテル） |
| | 19日 | 商学部インゼミ大会 |
| | 24日 | 第3回校友会執行部と学生4団体幹部との交 流会・懇親会 |
| | 26日 | イベント「第2回 歴史散歩」 |
| 12月 | 16日 | 第2回日本大学会長・副会長会及び常任委員会<br>常任幹事会開催 |
| | 20日 | 第40号会報　発送（10，000部） |
| 1月 | 11日 | 常任幹事会開催 |
| | 26日 | 役教職員と校友 会役員との新年交歓会及び<br>髙橋学部長就任お祝い（京王プラザホテル）<br>校友会奨学基金・資格取得支援金として<br>6，000，000円寄付 |
| 2月 | 9日 | 常任幹事会開催 |
| 3月 | 8日 | 常任幹事会開催 |
| | 25日 | 日本大学卒業式<br>商学部全卒業生へ記念品贈呈 |
| | 31日 | 日本大学創設130周年記念募金（100，000円）<br>スポーツ振興特別委員会へ寄付事業（100，000円） |

※ 備考：他学部校友会、同窓会の総会後懇親会に出席

## 平成29年度 商学部校友会事業計画

従来からの事業を継続し、学部と連携しながら校友との絆を深め準会員である在学生への支援を旨とし、母校日本大学商学部の発展に寄与する。
本年度の重要事業を特記し、下記以外の事業を実施する場合は、常任幹事会で十分に審議し実行する。

1. **会報の発行**
   本年12月初旬を目標に第41号会報を10，000部を校友に送付し、ホームページにも掲載する

2. **在学生への支援**
   ① 学生4団体との交流を図り、各種支援を行う
   ② 資格取得者に対し表彰及び奨励金の授与

3. **校友会奨学生募集**
   経済的理由により学業の継続が困難な学生を対象として学部と選考の上、10名に奨学金を支給する

4. **学部執行部との定期的な打合せを実施**
   学部長、事務局長及び学部執行部の教職員と定期的な打合せを実施し、相互理解と協力関係を深める

5. **ホームカミングデー協賛**
   平成29年11月4日（土）第22回ホームカミングデーに協賛する

6. **校友会員名簿の整理、充実を図る**

7. **卒業記念品配布**
   卒業生に対して学部と協賛し卒業記念品を贈る

8. **日本大学創設130周年記念事業への募金**

9. **ホームページの充実**

10. 学部教職員、校友、在学生との交流会開催

# 〝学生あっての大学〟という原点に戻る

商学部 事務局長 武内哲夫

商学部に平成26年10月に着任し、本年10月1日付けを以て事務局長を拝命しました武内哲夫と申します。

校友の皆様には、日頃から多大なるご支援、ご協力をいただき厚く御礼申し上げます。

この数年で商学部の施設・設備環境は質の高さと機能性に富んだ快適なキャンパスに生まれ変わりました。本大学16学部の中でもトップレベルのキャンパスと自負します。緑に包まれた斬新な景観と清潔感のあるキャンパスは受験生にも人気があり、志願者数増にも反映しており、とりわけ女子学生の在籍割合が顕著に増加しております。

他方、少子化による受験人口の激減及び社会状況の急変で、国は大学に教育及び運営に関して厳しい施策を示しています。非営利組織の大学にとって、それらは大きな難題で死活に及ぶものです。勿論、本学もそれに直面しています。その状況下、9月に第3次田中理事長、大塚学長体制がスタートしました。理事長は「財政改革と教職員の意識改革の重要性」を訴えられ、学長は「授業を理解している学生が大部分になるような教育体制」を表明されました。

現在、商学部においても教学の改善、改定を要する懸案事項が山積しており急務となっています。理想を具現する論理だけでは到底解決できない状況に来ていると思います。

では、何を根拠とするのか、対処すべき様々な素案に入る前に、教職員が〝学生あっての大学〟という原点に戻ることだと思います。学生を大切にしなければ大学組織の発展はありません。

商学部の一例を挙げますと、退学者、留年者数の減少を意図した個人面談を実施しています。教員による当該学生への親身な助言と支援に尽きますが、その当たり前な取組みが、今の大学に不足しているものかもしれません。教育改革には教職員の地道な努力と、学生に寄り添う姿勢が柱となると思います。

校友の皆様には、これからも一層のご支援、ご協力を切にお願い申し上げます。併せて、校友の皆様の益々のご活躍とご健勝を心から祈念いたします。

## 災害時区に協力　施設を一部貸出

商学部は7月14日、東京都世田谷区と世田谷ボランティア協会との間で「災害時における協力等に関する協定」を締結した。

右から髙橋学部長、保坂展人世田谷区長、横山康博世田谷ボランティア協会理事長

災害発生に伴い区から要請を受けた場合、協議の上で体育館など一部施設を無償で貸し出す。主に、ボランティアの受け入れと派遣などの調整を行う「ボランティアマッチングセンター」として使用される。

髙橋史安学部長は「協定を機に学部として一層の社会的責任を全うしていきたい」と話した。

## NEWS 山形県支部が商学部校友会、第一号の都道府県支部となった

日本大学商学部校友会山形県支部は、昨年の10月に発足した。

この度、会則に従い手続きが完了し、平成29年10月18日に商学部校友会都道府県支部の第一号となった。

10月21日には、山形市内で山形県支部総会を開催し、平成28年度の事業報告及び会計報告、続いて、平成29年度の事業計画及び予算計画が満場一致で承認、議決された。

総会は、加藤賢一日本大学校友会山形県支部長はじめ各学部の山形県支部長を来賓にお迎えし、盛大かつ和やかな雰囲気のなかで開催された。最後に、出席者全員で記念撮影を行い、山形県支部の発展を誓い散会した。

## 商品企画で優勝　26大学122チームが出場

企業が出したテーマに沿って学生が商品の企画案を競う「スチューデント・イノベーション・カレッジ2016」が11月27日、東京都千代田区の法政大で開かれ、商学部の尾崎龍司さん（経営3）が代表を務めるチームが全企画の中から1位に選ばれた。

今回は26大学から122チームが出場。九つの中から好きなテーマを選び、テーマごとの1位、全体の1位を決めた。各テーマで1位に選ばれた企画は、実際の商品化に向けて動き出す。

尾崎さんのチームが挑戦したテーマは「チャックが主役となる商品」。尾崎さんらは、雨の日に電車内などでぬれた傘が体に触れてストレスがたまる経験から、傘カバー開発に取り組んだ。開発したカバーは折り畳んでチャックを閉めると拳ほどの大きさになる。シンプルな設計で実現可能性が高く、デザイン性も高いと評価された。

尾崎さんは「商品企画はとても実践的で、貴重な経験になった」と話した。

## 秋川ゼミ野菜宅配でアイデア　栄養価情報を提供

商学部の秋川卓也専任講師のゼミに所属する泉亜季さん（商業3）ら5人が、有機・低農薬野菜などの通販を手掛ける「らでぃっしゅぼーや」とタイアップして企画した「おためしセット」の販売が7月19日に始まった。おためしセットは旬の野菜や果実が8品、加工食品が数種類入っている。

ゼミ生が作成した同梱のリーフレットには「おすすめレシピ」や野菜の栄養価を知らせるホームページのQRコードが掲載されている。

泉さんらは生鮮食品の流通を研究する中で、旬の野菜を鮮度を保って届けるだけでなく、その栄養価も伝えられれば消費者からより多くの支持を得られると考えた。栄養価の測定は、食品検査などを受け持つ企業に委託し、レシピはフードコーディネートを研究する生物資源科学部の谷米温子専任講師の研究室の協力を得て作成した。

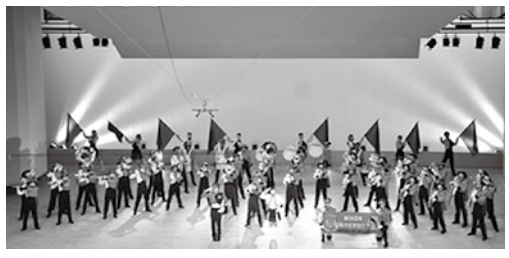
値段は1980円（税込み）で8月下旬まで販売された。

## 創立記念キャッチフレーズ　栄瀧澤さんに最優秀賞授与

「日本大学創立130周年記念キャッチフレーズ」の最優秀作品授賞式が昨年12月9日、日本大学会館で行われ、「130年の輝きと共に、未来を創る」の作者、瀧澤瞳さん（商学部3年）に田中英壽理事長から記念盾、大塚　兵衛学長から副賞13万円の目録が手渡された＝写真。

同キャッチフレーズの応募作品は2,288件。日本大学創立130周年記念事業等検討委員会が選考し、輝かしい伝統を礎に新たな時代を切り開く意志を簡潔に表した瀧澤さんの作品を第一席に選んだ。同委員長の石井進常務理事は授賞式のあいさつで「（130周年にあたる）2019年に向け、日本大学をイメージする言葉として広く社会に発信していく」と述べた。

## 吹奏楽研究会　3部構成で演奏会　劇中曲などで観客を魅了



吹研（丸山瑞希主将＝商・商業4）は9月16日、東京都新宿区の新宿文化センター大ホールで第57回定期演奏会を開催した。

演奏会は3部構成で行われ、第1部は4楽章がそれぞれ異なる雰囲気を持つ小交響曲「シンフォニエッタ水都のスケッチ」など4曲を演奏。第2部では、歌劇「カルメン」の劇中曲など有名なクラシック曲をマーチングで表現した。第3部は「美女と野獣」の劇中曲メドレーなど5曲を演奏し約1400人の観客を魅了した。

丸山主将は「長いようで短い4年間だった。今は達成感でいっぱい」と話した。

## 立石信雄懸賞小論文　田嶋さんら3人入賞　独自の経営アイデア競う

自分が経営者ならこんな企業や組織を作りたいというアイデアを競う「立石信雄懸賞小論文コンクール」で、商学部の田嶋義剛さん（経営4）と橋本清汰さん（同2）が優秀学生賞、方淑芬さん（同4）が特別賞に輝いた。表彰式は昨年11月30日に東京都内で行われた。

主催は電気機器大手オムロンの立石信雄元会長が名誉会長を務める「SAM日本チャプター」。1925（大正14）年に科学的管理法の普及を目指す「テイラー協会」日本支部として設立された団体が前身で、現在多くの経営者や研究者が会員となり、経営に関する研究や講演を行っている。一昨年に設立90周年を迎え、記念事業の一環としてコンクールを開いた。

コンクールには93点の作品が寄せられ、10点が入賞。入賞者には立石氏から奨学金が授与された。

田嶋さんは「労働力再分配装置」としての企業の役割を提案。少子高齢化により社員の年齢構成バランスが崩れつつある中、40歳を境に社員に起業や転職を積極的に促すことが必要と主張した。

橋本さんは、日本企業は競争意識にとらわれすぎているとして、社員の生活の充実に目を向けるべきだと提案。特に、勤務時間については午前9時から午後5時と限定せず、同じ8時間労働でもライフスタイルの変化に柔軟に対応できるようにすべきだとした。

方さんは、新興国の若い人材を日本の企業がインターンシップ等を通じて育成し雇用すれば、少子高齢化による人材不足を補えると提案した。

# 「スポーツを楽しむ」？

商学部 准教授 佐藤佑介

日本大学商学部でスポーツの授業を担当して、まもなく10年が経過する。その間、商学部を取り巻くスポーツ環境には大きな変化があった。スポーツ施設として素晴らしい機能をもつ100周年記念体育館や人工芝の大蔵グラウンドが建設されたことだ。

それらの施設の機能を十分に活用しながら、スポーツの授業は展開されている。その授業の目的には、コミュニケーション力等を育むことや、スポーツに関わる教養を培っていくことが含まれる。

近年、多くの研究者がスポーツのもつ多様な効果を明らかにしている。その効果は個人にとどまらず職場にも波及する。イギリスにあるラフバラ大学の研究グループは、スポーツが職場のチームワークやパフォーマンスの向上につながることを報告している。

それらを達成するために欠くことができないのが、「スポーツを楽しむ」ことである。しかしながら、この「スポーツを楽しむ」ことが案外むずかしい。それは、日本国民の運動習慣形成率が4割に満たないことからもうかがえる。

他方、先に紹介したラフバラ大学は、公に「学生の75％に週3日以上の運動習慣形成を目指す」ことを宣言している。自由に参加可能な魅力的なスポーツクラス（ヨガやダンス、トレーニング等多種にわたる）の実施、学生ボランティアによる近隣の子どもたちへのスポーツをする機会の提供（もちろん無料）、ラフバラ大学サッカーチームとマンチェスター・ユナイテッドFC（ユース）の試合開催、500人でトランポリンでのギネスに挑戦等も、その目標達成のための具体例である。

ラフバラ大学のそれらの取り組みの根底には、「スポーツを楽しむ」でなく「スポーツは楽しい」があることに気づかされる。スポーツはその価値が広く認められ、文化として根付いているのである。「Sport」のもつ本来の意味を英英辞典で調べてみてほしい。「スポーツは楽しい」ものであることを知ることができるはずだ。

日本大学商学部におけるスポーツの授業も、「スポーツは楽しい」をポリシーに展開されている。「スポーツを楽しもう」と言わずとも、「スポーツをしよう」の一言で、みんなが楽しさを直観できる、そんな文化を醸成させていきたい。そして、そのはぐくまれた文化が、日本大学商学部同窓生へと広がり、商学部校友会の発展に少しでも貢献することができるならば、これ以上に嬉しいことはない。

# ホームカミングデー講演会、懇親会・砧祭

2017年11月4日(土)ホームカミングデーが砧キャンパスで「ここで、繋がる」をテーマとした第47回砧祭と共に開催された。開始に先立ち、砧祭実行委員長木津晃人君、井上聡学生生活委員長の開会挨拶が行われた。続いて中村校友会長の挨拶の後、校友会からの寄付金が手渡された。木津君が砧祭開会宣言をし、会場からは喜びのクラッカーが鳴り響いた。

午前11時からは講演会が3号館2階100周年記念講堂で開催された。株式会社みずほ銀行 常務執行役員 徳本英俊氏の「私の銀行員生活と昨今の金融情勢について」をテーマに行われた講演に、聴衆は深く聞き入った。

講演後、場所を3号館1階のアゼリアに移し、懇親会が行われた。会は西川豊和副会長の挨拶に続き、武内哲夫商学部事務局長の乾杯の発声で始められた。現役学生のジャズ研究会による演奏が披露される中、旧交を深めながらにこやかに料理に舌鼓を打った。また、今回初めて参加した日本大学台湾校友会副会長は、自分と同様にぜひとも子どもを日本大学に入学させたいと希望を述べて挨拶とした。

懇親会も終盤に近づき、恒例の福引抽選が始まると、参加した校友たちは、国内旅行券や学部長のポケットマネーによる景品などの当選番号が発表される度に参加者から歓声が上がった。最後に三等以下の賞品当選番号が掲示され、つかの間の時を惜しむように旧交を温めながら和やかな雰囲気の懇親会は2時間ほどで閉会となった。

## 砧祭

中村会長の挨拶に続き実行委員長の木津君に寄付金が手渡された

真っ青な秋晴れの空のもと砧祭が午前10時から開催された

学生も校友も子どもたちも皆楽しめる2日間となった

学生が出店のネイルサロン

インゼミ大会のポスターセッション展示

## 懇親会

乾杯の発声は武内商学部事務局長

懇親会のバックグランドミュージックでグレンミラー音楽を聴かせるジャズ研究会

楽しみのひとつ色々な料理を味わいながら、校友との懐かしい語らい

開会の挨拶をする西川商学部校友会副会長

学部長賞に当選し笑顔がこぼれる

今年初めて台湾から校友が参加された

抽選を行う高橋学部長と講演者の徳本氏

台湾校友会副理事長林 延隆氏からペナントが送られた

## 講演会

講演する徳本氏

テーマを項目ごとに映像で表現し、聴衆者に分かりやすく講演された

当選番号を会場全体に声高々に伝える竹内達也校友会常任理

特賞の旅行券10万円分が当選した、昭和56年商業学科卒田口和身氏、昭和63年商業学科卒杉村英俊氏、昭和62年経営学科卒米澤淑夫氏の3氏(写真左から)

徳本氏が商学部学生時代にどんな出会いとどう過ごしたかを振り返り、いかに日大生の誇りを持って現在過ごしているかを説明した事から講演がスタートした。

最初のテーマの銀行員生活について、銀行員生活の戦いと苦悩の日々も赤裸々に述べ、いかにプラスの方向に持っていったか、また管理者としてどう若者をリードし育てていくかを、経験から話した。同時にそんな中から学んだ「心に留めている事」を項目立てて講演した。

続いてのテーマである昨今の金融情勢については、徳本氏のビジネス業界の現状分析とともにテクノロジーの進展で、どう変化したかなどを基本に、求められる収益構造改革を説明した。

最後に日本大学での学生生活があるから現在があると強調して講演を結んだ。

## 第14回 校友会ゴルフ大会開催

第14回校友会ゴルフ大会が10月21日（土）東京都八王子市の武蔵野ゴルフクラブで開催された。

当日は近づく台風21号の影響で、朝から雨が降り続くといった悪コンディションだったが、予定された19名の校友全員が参加、最後まで熱戦が繰り広げられた。

競技は新ペリア方式で行なわれ、昭和44年度卒業の廣川六郎氏がグロス98（47・51）ネット72・8で優勝した。プレー後の表彰式を兼ねた懇親会もゴルフと在学中の話題で大いに盛り上がり、最後まで楽しい校友会ならではの大会となった。

## 第4回校友会・学生団体 意見交換会及び交流会が開かれた

11月30日（木）午後6時から商学部2号館において商学部校友会幹部と学生4団体（砧祭実行委員会、ゼミナール連合協議会、学術文化団体連合会、体育団体連合会 順不同）の幹部との意見交換会が実施された。会は2017年度木津実行委員長の開会挨拶、司会進行で始められた。始めに中村校友会長の挨拶、および校友会の出席者が紹介された。木津君の紹介により、実行委員からの砧祭の総括、活動について述べられた。以降各団体、協議会から活動目的、活動内容の説明がなされ、先に提出された要望書を元に、必要な費用負担を校友会に依頼するなどの希望が提起された。校友会からの厳しい質問もあり、本年の意見交換会は今まで以上に白熱した内容の濃い意見交換会となった。

意見交換会後、場所を2号館1階食堂『ひまわり』に移し交流会が催された。中村会長、木津実行委員長の挨拶に続き、西川校友会副会長の乾杯の発声で、学生側の参加者が100人を超える出席者のため、和やかな雰囲気の中、様々な質問や話題で会は盛り上がった。一方では、厳しく言及した意見交換会のフォローをされた校友会員の優しさもみられた。締めくくりは山本茂雄副会長の三本締めで会は終わった。

質問する校友会と対応する学術文化団体連合会代表

交流会に集まった在学生は100人を超えた

## 歴史散歩 ―― 第三回

### 江戸の庶民生活に密着した史跡「神田明神～湯島天神」までを訪ねる

校友会主催の第3回歴史散歩が11月18日（土）開催された。お茶の水駅に校友、学生が集合、神田川にかかる聖橋を渡り、湯島聖堂へ。

聖堂内唯一の木造建築物で、関東大震災でも焼けなかった「入徳門」を入ったところで、本日の講師である江戸文化歴史検定1級合格の秋山 修 関 一成両先生が紹介され、2班に分かれスタート。聖堂内には、高さ4・57mの孔子銅像や屋根に想像上の神魚が乗った大正殿があり、お寺と違った中国の雰囲気を感じた。

道をへだてて、大黒様、恵比寿様、将門命が奉られている神田明神へ。本殿にて玉串を捧げ全員でお祓いを受けた。「明神下の岡引き銭形平次」の碑があるが、架空の人物である。昔のテレビドラマを懐かしんだ。急こう配の男坂と緩やかな女坂があり、男坂を下る。途中、関東に居を構えながら平家方に味方し、敵に首を取られても、見苦しくないように白髪を黒く染めていたという斎藤別当実盛住居の地が実盛坂としてある。この坂も急な長い階段であり、この界隈は坂が多く、高低差があるところと改めて感じた。日本武尊と姫を祀ったのが始まりという妻恋神社、柳沢吉保を通じ将軍綱吉の篤い信任を得た浄厳律師が創建した霊雲寺を見学して、徳川家光の乳母、大奥総取締「春日野局」の墓がある麟祥院へ向かう。

出発に先立ち見学の注意などをされた秋山先生

校友が経営している「ゆしま花月」の「かりんとう」

朝廷との交渉の前面に立つなど、松平信綱、柳生宗矩と共に家光を支えた一人に数えられた。墓に立つ無縫塔は四方に穴が開いており、死後も目を光らせているといわれがある。散歩最後の湯島天神は、祭神が学問の神様として知られる菅原道真公の為、受験シーズンには多くの学生が訪れる。

昨年訪れた「目黒不動」「谷中感応寺」と共に、江戸の三大富の一つである。散歩のあと、経済学部校友の店で、昭和22年創業の、かりんとう屋「花月」に立ち寄る。お土産に皆にかりんとうを頂いた。約3時間半の散歩のあと、校友と学生との交流を兼ねて懇親会が開かれ、和気藹々とした雰囲気の中、心地良い疲れを癒し散会となった。

神田明神にて参加者全員で記念写真を撮影

湯島聖堂の敷地内にある孔子像

笑顔で説明や質問に対応する関先生

## インゼミ大会に校友会賞を授与

12月3日(日)主催：ゼミナール連合協議会、後援・審査協力：商学部校友会による第43回インゼミ大会が開催された。

校友会から川下雄司氏（前(株)丸井社長）、大下一明氏（フマキラー(株)代表取締役）、木田正幸氏（木田会計事務所代表・公認会計士）の3氏がプレゼンテーション部門の審査員を務め、予選を勝ち抜いた7チームによるプレゼンテーションを聴き、それぞれに質問、意見、アドバイスを行い、テーマの着眼点、論理性、プレゼンテーション力を審査した。

審査の結果、最優秀賞には「米とマーケティング」を発表した岩田ゼミナール・おたんこなすチームが、優秀賞には「伝えよう地産地消の素晴らしさ」を発表した川野ゼミナール・チームAが学部から表彰され、校友会賞には「2042年問題の統計分析」を発表した芝村ゼミナール・Bチームが選ばれ、中村商学部校友会長より賞状と楯が贈られた。

閉会式では、審査員を代表して川下氏が「近い将来の問題点をテーマに着眼し、研究し良いプレゼンテーションでした。今後とも様々な研究を継続して下さい」と講評を行った。締め括りとしてレセプションが行われ、先生方、校友、在学生との交流が図られた。

歴史散歩の行程や写真、意見交換会の写真などは多くをホームページで紹介　http://nichidai-bus-kouyukai.com/